

29Q-pm04

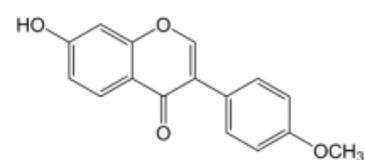
黄耆の成分構成の比較 (1) 産地および部位等による比較

○吉見 嵩志¹, 青山 弘枝¹, 下津 祐樹¹, 波多野 力¹, 陳 貴林² (¹岡山大院医歯薬, ²内蒙古大生命科学)

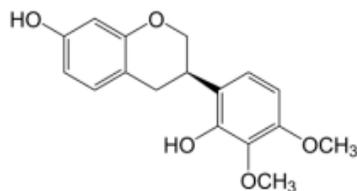
【目的】黄耆 (*Astragali Radix*) の基原植物は日本薬局方ではキバナオウギ *Astragalus membranaceus* およびナイモウオウギ *A. mongholicus* とされるが、後者はしばしば *A. membranaceus* var. *mongholicus* として扱われる。本生薬は、部位や根径、加工方法の違いなどにより含有成分に差異があることが報告されているが、今回、中国の栽培現地で調製された生薬を入手できたので、国内市場品との成分構成の比較を行った。

【方法】ナイモウオウギ由来の生薬から成分を抽出後、液-液分配、各種カラムクロマトグラフィーおよび HPLC 分取により化合物の分画、精製を行った。単離した化合物は NMR、MS をはじめとする各種スペクトルによって同定した。成分の定量・比較については、逆相 HPLC を用いて行った。

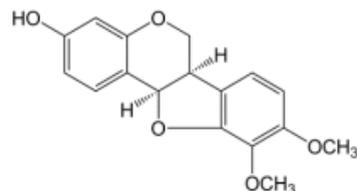
【結果及び考察】国内市場品および中国栽培品のナイモウオウギ由来の生薬から 1 などのイソフラボン 7 種、イソフラバン 1 種 (2)、3 などのプテロカルパン 3 種を単離同定した。また得られた化合物の一斉定量の条件を確立した。中国の生産地での入手品との比較、さらに黄耆の部位や加工方法等の違いによりフラボノイド構成に若干の差異を認めた。



Formononetin (1)



Astraisoflavan (2)



Astrapterocarpan (3)